

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	20997
事業名	消防団活動費					
評価担当課	所属名	消)総務部 職員課				
	課長名	新出 祐二	担当者名	久保田 康寛	電話番号	011-215-2020
施策名	主	-				
	副					
アクションプラン	○ 対象 ● 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外		
事業の性質	● 経常経費 ○ 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	● 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	消防団が組織的かつ安全に活動するため、資機材等の充実を図ることを目的とする。			
		長期	地域防災力の充実強化を図ることを目的とする。			
	取組内容	<p>【目的】消防団活動の資器材等を配備する。</p> <p>【内容】消防団活動管理経費</p> <p>① 需用費、備品購入費 貸与被服、消防団入団促進及び小型ポンプ等</p> <p>② 交付金 各消防団が地域実情に応じた活動を自主運営するための事業</p>				
実施結果	<p>地域防災力の維持向上及び消防団員の安全装備等の充実を図るため、消火のために必要な軽可搬消防ポンプ(6台)や消防用ホース(40本)等の更新を実施した。また、新入消防団員への被服貸与やホース等の資機材の修繕を実施した。</p> <p>交付金については、各消防団の地域実情に応じて研修や訓練等に有効活用された。</p>					
事業実施における工夫点	効果的かつ効率的な消防団運営を行うことができるよう、年に2～3回消防団側と会議を行い、充実強化の手法について協議している。					
対象者	消防団員	開始	0 年度	終了	0 年度	
関連法令・条例・要綱等	消防法、消防組織法、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律、札幌市消防団条例、札幌市消防団規則					
他都市の状況	消防組織法に基づくものであり、運営方法に違いがあるものの、活動については一元的に行われている。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	40,714	44,845	37,120	41,582	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	0.5	0.5	0.5	0.5	
人件費	3,600	3,600	3,600	3,600	
計(事業費+人件費)	44,314	48,445	40,720	45,182	
事業費の内訳	令和3年度決算	○札幌市10消防団連合協議会交付金:17,400千円 ○消防団被服等消耗品:12,053千円 ○その他:7,667千円 予算現額:37,120千円			
	令和4年度予算	○札幌市10消防団連合協議会交付金:17,400千円 ○消防団被服等消耗品:18,218千円 ○その他:5,964千円 予算現額:41,582千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	災害事案に出動した活動回数及び人員			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	369回/650人	400回/976人	196回/364人	300回/440人	
活動指標2	指標名	災害対応力向上訓練及び研修			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	896回/4134人	1900回/12730	881回/3047人	1365/10121	
成果指標1	指標名	資機材等を配備又は更新した分団数(全分団数72)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	消火活動に必要な軽可搬消防ポンプや消火用ホースを計画的に更新した。さらに、新入消防団員への被服貸与を被服のリユースシステムを活用して調達することで、限られた予算の中で必要数を満たすことができた。 交付金については、地域実情を踏まえた消防団活動を展開するために、市内に10ある消防団に交付し、各消防団それぞれで資機材等を購入することで、災害活動や訓練、防災指導を円滑に行うことができた。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	被服や装備については、消防団活動に欠かせない資機材であり、他政令市の装備水準や地域実情を勘案した配備としており、修繕費等も必要最低限に抑制した上での予算規模としていることから適切である。 交付金については、地域の特性や規模に応じた各消防団独自の事業を実施するために必要な資機材や消耗品の購入に充当していることから適切である。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	装備品や資機材等の整備方針については、各消防団の代表者(本部長)を委員とした検討会で決定しているため、各消防団の意見を反映させた効率的な執行になっていることから適切である と考える。 交付金については、用途を制限して、地域の実情に即した消防団活動を展開するために交付しており、各消防団独自に必要な資機材等に充当され、円滑な活動に役立っていることから適切であると考える。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	B	交付金については、各消防団の円滑な活動に効果を発揮していることから、ニーズに十分に 応えていると考える。一方で、資機材の更新や修繕等を最低限に抑えていることから、経年劣化した 資機材等の更新要望があるが、全ての要望に応えられているとは言い難いため。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	資機材の適切なメンテナンスの徹底や更新計画の見直しなどによる購入費等の抑制や貸与被服のリサイクルによる被服費の抑制など、予算の範囲内で事業目的が達成できるよう、これまでも様々な内部努力を重ねてきた。今後も一斉更新を迎える資機材が発生しないよう、適正な配置数及び計画的な更新とし、事業の停滞を招くことがないよう取り組んでいく。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	故障の多い小型ポンプの更新を前倒した。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	故障の多い小型ポンプの更新を前倒したことで、消防団の災害対応能力の低下を未然に防ぐことができたため。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	○ 改善 ● 現状維持 ○ 休止・廃止 義務的経費の側面が強いことから、継続して事業を実施する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 各資機材の更新計画をもとに柔軟に資機材を更新していく。		見直し効果額	0 千円